

愛する皆様へ

主の御名をあがめ、賛美いたします。主は真実であり、偽りのない方であられます。主は、私たちの叫び声をお聞きになり、私たちを落とし穴や罠から救い出して下さいました。主だけがただ栄光と賛美を受けるにふさわしいお方です。アーメン

この度、主にあって神の家族である皆様に、このような文書をお送りするようになったのは、ここ1～2年に渡る裁判に関する結果、およびそれに対する国際福音キリスト教団の立場をお伝えする必要を感じたからです。

過去 30 年間、全ての犠牲を甘受しながら、日本宣教に献身してきた卞在昌宣教師は、2010 年 1 月 28 日、以前本教団に属していた女性 A さんの虚偽告訴によって、突然警察に逮捕され、予期せぬ事態に見舞われました。

卞在昌宣教師は逮捕された後、およそ5ヶ月半、拘留所の中で拘留された状態で、接見禁止処分を受け、独房生活を強いられました。また、2010年7月7日に保釈された後も行動の制約を受けるとともに、多くの人々から破廉恥な犯罪者という非難を受ける苦しい時間を過ごさなければなりません。

しかし、ついにこのようなお知らせを伝えることができるようになりました。この約 1 年 4 ヶ月、ただ神様だけを信頼し、真実を明らかにするための辛い戦いの日々を送ってきましたが、これも一重に愛の慰めと激励を送ってくださった皆様のお陰であったと心から感謝をしております。

まず、結論から申し上げますと、「無実・無罪判決」を受け取りました。

2011 年 5 月 20 日、水戸地方裁判所土浦支部で開かれた判決公判で、裁判長は、全ての結果を主に委ね判決を待っていた卞在昌宣教師に、「被告人は無罪である」という判決を冒頭で下しました。その後、約 2 時間に亘って、客観的かつ明確な証拠を挙げ、詳細に検察側の主張を退け、無罪判決の理由を説明しました。

裁判長は、判決文の中で、客観的証拠に基づき、事件があったとされる日時、卞在昌宣教師が韓国から来日していた宣教師達の訪問を受け、同人らと外出しており、そもそも犯行現場とされる部屋にいなかった事実を認め、それと決定的に矛盾するAさんの証言は信用性がないと結論付けました(なお、Aさんが犯行日時を特定した理由に照らせば、犯行日時の取り違えはあり得ません)。

検察が起訴した刑事裁判で無罪判決になる確率は0.14%、すなわち、1,000件の内、1.4件のみが無罪になるという事実を考慮すると、いかに卞在昌宣教師の無実を証明する証拠が確証に満ちたものであるのか、また、この告訴がまったくの虚偽であるのかを理解することができると思います。

それにも拘わらず、虚偽事実流布により、教会を迫害し、伝道を妨げてきた方々は、今に至ってもなお悔い改めることなく、かえって、「今回の判決は密室で行われた事件であるため、犯罪事実を立証するのが難しく、無罪になった」という歪曲された情報を流し、その勢いに拍車をかけております。

今まで、卞在昌宣教師と本教団はこの3年余りの間、どんな仕打ちに対しても、最後まで耐え忍び、ただキリスト教の精神に立脚し、解決しようと努力してきました。それだけではなく、今回のような屈辱的な逮捕や拘禁、刑事および民事訴訟を受けながらも、それでも、なおさらに祈り、耐え忍んできました。また、無実・無罪判決を受けた後も、マスコミへのインタビューを通して、キリスト教の精神に立脚し、この問題を解決しようとする意志を表明しました。

しかし、私たちを迫害する人々はさらに歪曲した情報を流し、卞在昌宣教師と本教団を非難しているという現実を見ると、このような彼らの行動は、個人と教団を超え、日本全体の福音宣教に大きな支障を来たしていると判断をせざるを得なくなりました。

よって、「教会の言うことさえも聞こうとしないなら、彼を異邦人か取税人のように扱いなさい。」(マタイ 18:17)という主の御言葉と自身の潔白を「カイザルに訴える」しかなかった使徒パウロの姿を教訓にし、私たちもやむを得ず、法の判断を通して私たちの潔白を証明するほかないと判断し、Aさんとその背後の勢力による「虚偽事実流布」行為に対し民事訴訟を提起するに至りました。

私たちは、私たちが経験した一連のことを通して、日本の地にこのようなことが二度と起こらないことと、キリストの福音の道がより一層力強く前進するようにと願うばかりです。

最後に、このような大きな試練の中にいる私たちを常に励まし、声援を送り、祈って下さった多くの方々に心から感謝の言葉をお贈り致します。

何よりも、真実な私たちの主に感謝と栄光をささげ、主からいただいた恵みの御言葉を分かち合いたいと思います。

「私はあなたに感謝します。あなたが私に答えられ、私の救いとなられたからです。家を建てる者たちの捨てた石。それが礎の石になった。これは主のなされたことだ。私たちの目には不思議なことである。これは、主が設けられた日である。この日を楽しみ喜ぼう。」(詩篇118：21-24)

アーメン

2011年6月8日
国際福音キリスト教団 代表牧師会